

第28回 山梨医学フォーラム

2025年 6 月 16 日(月)

18:00~19:30

会場：山梨大学医学部 臨床大講堂
(山梨県中央市下河東1111 (代表))

特別講演



「グローバルな視点から考える、
日本の創薬戦略における最適解」

座長：上野 祐司 先生

山梨大学大学院総合研究部医学域神経内科学教授

演者：狩野 修 先生

東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野 教授



◆日本医師会生涯教育講座認定：9：医療情報（1.5単位）の対象となります。

共催：山梨大学医学部 山梨大学医師会 山梨大学医学会 後援：山梨医学会 山梨県医師会生涯教育委員会

【講演抄録】

近年、日本では新薬開発の遅れにより「ドラッグ・ロス」が社会問題として取り上げられるようになっており、筋委縮性側索硬化症（ALS）もその例外ではありません。2023年には総理大臣官邸において創薬エコシステムサミットが開催され、岸田総理からは創薬力の再興や薬事規制緩和に向けた具体的な数値目標が提示されました。ALS領域においては、世界中で約50種類の治療薬が開発中であり、そのうち半数以上が第1相試験以降の治験段階に進んでいます。しかしながら、限られた患者数に対して治験数が上回る状況となっており、効率的な治験体制の構築が大きな課題となっています。

東邦大学では2017年にALSクリニックを開設し、2020年にはアジアで初めて北米のNEALS（Northeast ALS Consortium）に加盟するなど、グローバル治験への参加体制を整備してきました。さらに2023年には、AMEDにより「ALS治療薬の臨床評価ガイドライン作成に関する研究」（研究代表：徳島大学 和泉唯信教授）が採択され、国際連携を視野に入れたガイドラインの策定も進行中です。

また、近年注目されているPPI（Patient and Public Involvement）の観点から、同大学ではALS Caféの活動を通じて、患者や家族と医療者が協働する仕組みを構築してきました。2020年以降は、研究へのフィードバックを反映する取り組みにも発展し、今後はリサーチ・アドボケートの育成に向けた教育・研修にも力を入れていく予定です。国内外との連携と市民参画の深化により、ALS治療薬の開発がさらに加速することが期待されます。

〈学歴〉

1993年4月 東邦大学医学部入学
1999年3月 東邦大学医学部卒業
2005年3月 東邦大学大学院医学研究科博士課程修了 博士（医学）

〈職歴〉

1999年 4月 東邦大学医学部附属大橋病院 第4内科 研修医
2002年 5月 順天堂大学 放射線科 研究員
2002年 8月 東京都医学総合研究所 研究員
2002年11月 国立精神・神経医療研究センター 神経内科 研究員
2005年 4月 NTT東日本関東病院 神経内科 医員
2007年10月 Methodist Neurological Institute, Weill Cornell Medical College ポスドクフェロー（Stanley Appel教授）
2011年 4月 東邦大学医学部 内科学講座 神経内科学分野 助教
2013年 3月 東邦大学医学部 内科学講座 神経内科学分野 講師
2019年 4月 東邦大学医学部 内科学講座 神経内科学分野 教授
2023年 4月 東京科学大学 非常勤講師

〈学会活動など〉

日本神経学会代議員，日本神経治療学会理事，日本心血管脳卒中学会評議員，日本神経病理学会代議員，日本神経感染症学会評議員，日本難病医療ネットワーク学会評議員，筋萎縮性側索硬化症診療ガイドライン作成委員会委員、Japan Consortium for Amyotrophic Lateral Sclerosis Research（JaCALS）品質マネジメント委員会委員，World Federation of Neurology（WFN）ALS/MND member，ALS Clinical Trials Guidelines member，Northeast ALS consortium（NEALS）member

〈公的役職〉東京都医師会学術委員，日本医療研究開発機構（AMED）課題評価委員

〈受賞など〉

2007年10月 第36回かなえ医薬振興財団海外助成留学金受賞
2008年10月 上原記念生命科学財団リサーチフェローシップ賞
2010年 4月 第63回米国神経学会 Highlight Poster賞
2018年11月 日本神経治療学会 学会賞